

原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2024 月 2 月」

2024 年

- 2 月 1 日 午前 2 時 04 分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 3.1 と推定。石川県志賀町で震度 3。
- 2 月 1 日 関西電力は、1 月 21 日から 22 日にかけて高浜原発 1 号機で蒸気発生器に水を送る 2 次系の配管の一部から蒸気が漏れたトラブルで配管に長さ 3.5 センチのキズがあることが分かったと発表した。冷却水が漏れた配管には異常はなく、関西電力では準備が整い次第動かすことにしている。
- 2 月 1 日 IAEA のグロッシ事務局長は、ロシアが占拠するウクライナ南部ザポロジエ原発で、ウクライナ国営原子力企業エネルゴアトムと雇用関係にある作業員の勤務をロシア側が認めないと決めたと伝えた。「スタッフはすでに大幅に減少している」と指摘し、原発の管理態勢に懸念を示した。
- 2 月 1 日 地元自治体からなる安全等対策協議会が、浜岡原発を視察した。4号機の近くに H-5 断層があるが、中部電力は活断層ではなく安全性に問題ないとしている。
- 2 月 2 日 午前 1 時 45 分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 3.9 と推定。石川県穴水町で震度 3。
- 2 月 2 日 午前 10 時 5 分ごろ、現在停止中の東海第二原発の原子炉建屋の管理区域内で、作業員が照明のスイッチを入れたところ、天井にある電線が通る管の付近から火花が確認された。この影響による放射能漏れなどの異常は確認されていないという。
- 2 月 2 日 九州電力が、運転開始 30 年となる玄海原発 3 号機の高経年化対策に関する保安規定変更認可申請の補正書を原子力規制委員会に提出した。
- 2 月 2 日 九州電力が、玄海原発 3 号機の発電を再開した。
- 2 月 2 日 伊方原発で、地震による過酷な事故を想定した総合防災訓練があり、四国電力の社員らおよそ 240 人が参加した。
- 2 月 3 日 15 時 09 分ごろ、山梨県東部・富士五湖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.3 と推定。山梨県富士吉田市、大月市、富士河口湖町で震度 3。
- 2 月 4 日 午前 1 時 16 分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.2 と推定。石川県珠洲市で震度 3。

- 2月4日 九州電力が、玄海原発の低レベル放射性廃棄物を青森県六ヶ所村の日本原燃の埋設センターに輸送する作業に着手した。
- 2月4日 福島第一原発事故による避難者が起こした損害賠償請求訴訟が福島地裁いわき支部で和解したことを受け、東電幹部が原告らに謝罪した。原告側弁護士によると、同種の集団訴訟で和解に至ったのは全国初という。
- 2月6日 午前11時56分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。石川県七尾市、穴水町で震度3。
- 2月6日 1月21日に2次系配管から蒸気漏れが確認された高浜原発1号機について、関西電力が、定期検査時の配管周囲の部品施工に原因があったとする報告書を原子力規制委員会に提出した。問題の配管には42ミリに渡る亀裂があり、配管の上に設置された点検用の足場の金属板が、熱で膨張した配管と接触し、給水ポンプの振動が加えられたことで、亀裂が入ったとみられている。
- 2月7日 午前6時08分ごろ、佐渡付近を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.1と推定。石川県志賀町で震度4、新潟県新潟南区、新潟西区、長岡市、柏崎市、上越市、佐渡市、阿賀町、出雲崎町、刈羽村、富山県富山市、射水市、舟橋村、石川県七尾市、輪島市、珠洲市、かほく市、宝達志水町、中能登町、能登町で震度3。
- 2月7日 午前8時53分ごろ、福島第一原発1～3号機の浄化処理前の汚染水を一時貯蔵する施設の建屋外に汚染水が混ざった水が40分間漏れた。排気用配管から水が漏れ、地面に敷いていた鉄板上に広がっているのを見つけた。漏れた量は推計5.5トンで、ガンマ線を出す放射性物質の量は220億ベクレル。海への流出や外部への放射能漏れは確認されていないという。鉄板の隙間から土壤に染みこんだ可能性もある。
- 2月7日 能登半島地震の際、志賀原発の周辺に116か所設置されているモニタリングポストのうち、18か所でデータが得られなくなった件で、原子力規制庁が原子力規制委員会の会合の中で、通信障害が原因とみられると伝えた。
- 2月7日 九州電力が、玄海原発3、4号機の耐震設計の目安となる揺れの見直しに関する原子炉設置変更許可を原子力規制委員会から許可を受けたと発表した。
- 2月7日 九州電力が提出していた川内原発の耐震設計の目安となる揺れの想定の見直し原子炉設置変更許可申請を原子力規制委員会が許可した。
- 2月7日 20時59分ごろ、和歌山県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。和歌山県湯浅町で震度4、和歌山県海南市、御坊市、広川町、日高町、由良町、日高川町で震度3。
- 2月8日 午前6時20分ごろ、敦賀原発1号機のタービン建屋にある空気を外に出

す「排気ファン」から火花や煙が出ているのを従業員が見つけたと通報した。放射能漏れは確認されていない。

- 2月8日 関西電力が、使用済み核燃料を原発の敷地内に保管する乾式貯蔵施設について、高浜に2か所で350トン、大飯に2か所250トン、美浜に100トンを貯蔵するとする方針を福井県に伝えた。
- 2月9日 原子力規制委員会が、東通原発1号機の審査会合で、敷地に到達する津波は最大で海拔12.1メートルとする東北電の想定をおおむね了承した。
- 2月9日 浜岡原発で、重大事故が発生したときに備えた対策訓練が行われた。
- 2月9日 北陸電力が、志賀原発の送電線で、鉄塔1基に部品の変形が見つかったと発表した。能登半島地震で変圧器が故障し、外部電源5回線のうち2回線が使えない状態。補修中はさらに1回線が停止、半日程度は計3回線が使えなくなる。非常用電源があるため、原発の安全確保に問題はないとしている。
- 2月9日 欧州連合の欧州委員会が、次世代型原発「小型モジュール炉(SMR)」の2030年代前半の実用化を目指して「欧州産業連合」を設置すると発表した。参加企業・団体を募り、官民に参加を呼びかけた。
- 2月10日 関西電力が、大飯原発3号機の定期検査を開始した。
- 2月10日 川内原発の運転延長が認可されて初めて、原子力防災訓練が行われた。
- 2月10日 16時47分ごろ、茨城県南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。茨城県筑西市で震度3。
- 2月11日 12時36分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。石川県珠洲市、能登町で震度4、石川県七尾市、輪島市で震度3。
- 2月13日 東京電力が、7日、福島第一原発で放射性物質を含む水が漏えいした問題で、9日から重機を使い水がしみ込んだとみられる周辺の土壌の回収を行い、2日までにフレコンバック20袋分にあたる20立方メートルを回収。の影響がないことが確認されるまで作業を続けるとしている。漏れたのは最大で220億ベクレル5.5トンと試算される。
- 2月13日 原子力発電環境整備機構(NUMO)が、高レベル放射性廃棄物(核のごみ)の最終処分場の選定について、北海道の寿都町と神恵内村の文献調査の報告書案を公表した。
- 2月14日 午前10時32分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.5と推定。石川県穴水町で震度4、石川県七尾市、輪島市、志賀町で震度3。

- 2月14日 福島第一原発で放射性物質を含む水が漏えいした問題で、舗装されたコンクリートの下の土を調べたところ、周辺の放射線量の350倍にあたる1時間あたり7ミリシーベルトの放射線が検出された。東京電力は「環境への影響はないと考えている」として、放射線量が周辺と同じになるまで土を取り除く方針。
- 2月14日 15時29分ごろ、京都府南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。京都府伏見区で震度4、京都府北区、上京区、左京区、中京区、下京区、右京区、山科区、西京区、亀岡市、向日市、南丹市 大山崎町 久御山町 京丹波町、大阪府高槻市、島本町、能勢町、兵庫県三田市で震度3。
- 2月14日 福島第一原発事故で避難指示区域に一時指定された川俣町山木屋に住んでいた原告が、東電に対し、古里の生活を奪われたことによる慰謝料などを求めた裁判の控訴審判決が行われ、仙台高裁の瀬戸口壮夫裁判長は、東電の事故対応に不手際を認め、1審判決の賠償総額を約5億円増額し、原告299人に対して総額10億9891万円の支払いを命じた。
- 2月14日 18時33分ごろ、鹿児島市の桜島・南岳山頂火口で爆発的噴火があり、噴煙が火口から5千メートルの高さまで上がった。気象庁は熊本、宮崎、鹿児島各県の一部に降灰予報を出した。
- 2月14日 東海第二原発の防潮堤の施工不備に関して、原電が茨城県原子力安全対策委員会の「東海第二発電所安全性検討ワーキングチーム」会合で、不備があったと報告した。ただ、不備の詳細や対策方針などは今後、説明するとした。
- 2月15日 午前10時08分ごろ、京都府南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.7と推定。京都府亀岡市で震度3。
- 2月15日 12時48分ごろ、佐渡付近を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.1と推定。新潟県新潟西区、長岡市、三条市で震度3。
- 2月15日 15時29分ごろ、新潟県上中越沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.0と推定。新潟県新潟西区、長岡市、三条市、加茂市、佐渡市、石川県珠洲市で震度3。
- 2月15日 東京電力が、福島第一原発の建屋から汚染水が漏えいした事故について原因を発表した。主な原因は、本来は作業中に閉めておくべきだった手動弁を閉め忘れたこととした。漏えいした汚染水については、当初の推計の約5.5トンから約1.5トンに、放射性物質の総量を約220億ベクレルから約66億ベクレルにそれぞれ下方修正した。
- 2月16日 電気事業連合会が、原発の燃料用に英仏で保管中のプルトニウム計1.7トンを各社間で「交換」する契約を結んだと発表した。プルトニウムを使う

「プルサーマル発電」を実施する九州、四国電力が、他社の保有分を消費することが狙い。2社は英国で保管中のプルトニウム計1.7トン分と、東京電力や中部電力など5社がフランスで保管している計1.7トン分を帳簿上で「交換」する契約を15日付で結んだ。実際の移動は伴わない。

- 2月16日 東京電力が、福島第一原発での燃料デブリの試験的取り出しの延期について、原子力規制委員会に計画の変更を届け出た。これで3度目の延期となった。
- 2月16日 電気事業連合会の池辺和弘会長が、能登半島地震による志賀原発への影響について、「知見を共有し、原発の安全性向上につなげていきたい」と述べ、電力業界として検証作業を始めたとした。
- 2月16日 午前11時40分ごろ、福井県敦賀市にある原子炉「ふげん」で、16日午前、タービン建屋で作業員が照明設備の分電盤の電源を切ろうとしたところ出火し、消火器で消し止めた。モニタリングポストなどの値にも異常はないことから、外部への放射能の影響もないとしている。
- 2月16日 柏崎刈羽原発で緊急時演習が行われた。
- 2月16日 18時52分ごろ、茨城県南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。栃木県宇都宮市、下野市、壬生町で震度3。
- 2月17日 午前6時23分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.3と推定。石川県穴水町で震度3。
- 2月17日 玄海原発事故を想定した県原子力防災訓練が行われ、佐賀県、および隣県の松浦市の住民などが避難方法などを確認した。
- 2月17日 原子力発電環境整備機構(NUMO、ニューモ)と資源エネルギー庁が、原発から出る高レベル放射性廃棄物最終処分について、住民向け説明会を鹿児島市内で開いた。
- 2月18日 原子力規制庁が、柏崎刈羽原発が立地する新潟県の住民を対象に説明会を開いた。原子力規制委員会が事実上の運転禁止命令を解除した経緯について説明、理解を求めた。質疑応答では、不祥事が相次ぐ東電への不信の声が複数上がった。
- 2月19日 東北電力が、女川原発2号機の再稼働について9月ごろになると発表した。7月ごろには原子炉に核燃料を入れ、9月ごろには再稼働させたいとしている。
- 2月19日 柏崎刈羽原発で、「大地震」に加えて「大雪」が重なったことを想定した訓練が行われた。
- 2月21日 午前11時34分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.4と推定。石川県珠洲市で震度3。

- 2月21日 斎藤健経済産業相が、福島第一原発の汚染水処理設備で水漏れ事故が相次いだことを受け東電の小早川智明社長を呼び、再発防止の徹底を指導した。
- 2月21日 18時27分ごろ、愛媛県南予を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.9と推定。愛媛県宇和島市、高知県宿毛市で震度3。
- 2月22日 午前3時半すぎ、福島第一原発の伐採した木材を焼却する建物で火災警報器が作動した。東電の社員が監視カメラで現場付近を確認したところ、火元は見つからなかったものの、その後、水蒸気が発生し、現場が見えなくなった。東京電力は「火災ではない」としているが、建屋の内部には水蒸気が充満していて詳しい状況を(23日午前段階)確認出来ていない。
- 2月22日 13時22分ごろ、宮古島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.4と推定。沖縄県宮古島市で震度3。
- 2月22日 関西電力が、定期検査中に配管の損傷が見つかった高浜原発4号機について、蒸気発生器内に生じた鉄さびの塊が原因とする調査結果を原子力規制委員会に報告した。4月上旬から遅れる見通しとしていた再稼働時期については未定とした。
- 2月22日 食品流通会社「オイシックス・ラ・大地」会長であり創業者が、政府が表現する「処理水」と表現しなかったとの理由で批判を受け、自ら辞任した。
- 2月23日 再稼働に向けた動きが進む柏崎刈羽原発に関する原子力規制庁や内閣府などが主催する説明会が、新潟県内30市町村の首長に対して行われた。「このままの計画では避難できない」という声が相次いだ。
- 2月26日 15時24分ごろ、愛媛県南予地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.1と推定。広島県呉市、府中町、愛媛県松山市、今治市、西条市、伊予市、愛媛松前町、伊方町で震度4、広島県広島中区、広島西区、広島安佐北区、広島安芸区、竹原市、福山市、東広島市、廿日市市、江田島市、海田町、坂町、大崎上島町、山口県光市、柳井市。周防大島町、田布施町、平生町、愛媛県宇和島市、八幡浜市、大洲市、西予市、上島町、久万高原町、砥部町、内子町、松野町、愛南町、高知県高知市、宿毛市、いの町、仁淀川町、梶原町、高知津野町、大分県佐伯市、臼杵市、国東市、姫島村で震度3。
- 2月27日 午前6時40分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。福島県飯舘村で震度3。
- 2月27日 14時10分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは2.8と推定。石川県輪島市で震度3。
- 2月27日 14時19分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは2.8と推定。石川県輪島市で震度3。

- 2月27日 柏崎市議会の調査特別委員会が、柏崎刈羽原発の再稼働を求める請願について、賛成多数で採択した。2月定例会最終日の3月21日の本会議で採択される見通し。
- 2月28日 東京電力が、福島第一原発の汚染処理水の4回目の海洋放出を始めた。約7800トンを経過17日間かけて放出し、順調に進めば3月17日の完了を見込む。
- 2月28日 東北電力が、女川原発の敷地内に、再稼働を予定する2号機の使用済み核燃料を一時的に保管する「乾式貯蔵施設」を設置することに関して、県などに事前協議を申し入れた。
- 2月28日 東京電力が、福島第一原発1号機の格納容器にドローンを投入し、内部の状況を調べる初の調査を始めた。ここまでは、水中ロボットを使い水に浸かっている部分を中心に調査が行われていたが、格納容器全体の状況を把握するため、水に浸かっていない、より上のエリアにドローンを投入した初の調査に着手する。
- 2月28日 水戸労働基準監督署が、東海第二原発などの原子力施設で火災が相次いでいるとして、管内の東海村と大洗町にある10事業所に対し、火災防止の徹底を図るよう文書で要請した。
- 2月28日 16時14分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.5と推定。石川県輪島市で震度3。
- 2月28日 東海第二原発の重大事故に備え、茨城県東海村が昨年12月策定した広域避難計画について、山田修村長が、地震や津波と原発事故が同時に起きる「複合災害」の想定が現在ではされていないとの認識を示した。
- 2月28日 22時43分ごろ、浦河沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.5と推定。北海道浦河町で震度3。
- 2月29日 午前11時13分ごろ、千葉県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。千葉県茂原市、東金市、市原市、いすみ市、大網白里市、九十九里町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長南町で震度3。
- 2月29日 12時30分ごろ、千葉県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。千葉県いすみ市で震度3。
- 2月29日 16時27分ごろ、千葉県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.8と推定。千葉県大網白里市、九十九里町、長南町で震度3。
- 2月29日 18時35分ごろ、千葉県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.9と推定。千葉県大網白里市で震度4、千葉県千

葉若葉区、茂原市、東金市、市原市、山武市、いすみ市、九十九里町、
一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長南町で震度3。

2月29日 東電が、福島第一原発1号機の原子炉圧力容器下部の小型ドローンによる調査を見送った。無線中継用のロボットが予定の場所に到達できなかった。原因は確認中で、調査時期は見通せない。